

平成30年度気仙沼市総合防災訓練に参加しました（2018/6/7）

テーマ：図上訓練、災害対策本部

場所：気仙沼市役所 ワン・テン庁舎（宮城県気仙沼市）

2018年6月7日(木)、気仙沼市役所において、平成30年度「みやぎ県民防災の日」気仙沼市総合防災訓練として災害対策本部を設置・運用する図上型訓練が行われ、災害科学国際研究所から寅屋敷哲也助教（人間・社会対応研究部門）、気仙沼サテライトの熊谷成一技術補佐員が訓練評価者として参加しました。

この訓練は、市役所の災害対策本部対応職員や防災に関する連携機関を対象とし、大規模災害初動期における災害対策本部の対応能力の向上及び消防、警察等の関係機関との連携促進を図るために、6月12日の「みやぎ県民防災の日」に先立ち実施されました。訓練は、災害発生後のさまざまな状況・情報を付与するコントローラー（進行管理者）と、それらの情報に基づきながら災害対応を実践するプレーヤー（訓練参加者）に分かれて行われました。今回の訓練は、前半が地震発生から1時間後まで、後半は1日後の状況を想定して実施され、東日本大震災級の地震に続いて大津波が発生し、1日後には台風の接近により、大雨警報及び土砂災害警戒情報が発表されて土砂災害発生の危険度が高まるという複合災害の要素を含めて行われました。時々刻々と道路渋滞・交通事故、火災、ライフライン途絶等の状況・被害が発生し、プレーヤーがさまざまな情報を収集・共有しながら、避難指示の実施、被災者の救援、避難所の設置運営、各種救援の受入や関係機関との調整等を実践しました。また、実際の災害発生時のように非常に緊迫した雰囲気の中で、慌ただしく情報が錯綜するような状況を再現するように実施されました。

評価者として参加した当研究所の教員・職員は、事前に情報提供された災害対策本部の体制や災害のシナリオも踏まえて、各テーブルを回って訓練活動の様子を観察、評価を行い、訓練終了後の意見交換において、参加された職員・関係機関と災害対策活動の課題点などを共有しました。



訓練中の想定地震に対する身体保護の様子



訓練参加者の意見交換の様子